

陳情の審査、意見書の提出

陳情第1号 特急「サンダーバード」「しらさぎ」 存続のための協議を県に求める陳情

趣旨
採択



採択意見

本市議会では、平成27年12月に特急存続を求める意見書を提出したが、それから4年が経過しており、今の情勢を踏まえ、議会として意見書を改めて提出すべきである。
また、本市および本市議会は、県やJRに対し特急存続を求める要望を行っているが、県は年内を目途に特急存続についての結論を出したいと示しており、今現在の本市の立場を改めて明確に示すべきである。

趣旨採択意見

既に県はJRに対し協議を行っており、改めて意見書を提出する必要性はあるのか。特急存続についての協議を求める陳情の趣旨には、ある程度は理解できるので、趣旨採択とすべきである。

この陳情の審査経過において、審査結果にかかわらず、市議会として特急存続を求める意見書を出すべき、との複数の意見があったことから、審議を行った結果、本委員会として、国および県に対し、特急「サンダーバード」「しらさぎ」の存続を求める意見書を作成し提出することで、委員全員の意見の一致を見た。

市会案第2号 北陸新幹線福井・敦賀開業後の 特急「サンダーバード」「しらさぎ」の存続を求める意見書について

可決

北陸新幹線福井・敦賀間については、3年後の令和5年春の開業に向けて整備が進められている。

そのような中、国土交通省は、大阪・富山間を直通運転する予定であったフリーゲージトレインの導入を断念する方針を明らかにしており、このままでは、関西圏からの特急「サンダーバード」の利用者も敦賀駅での乗り換えが生じることにより、利便性の大きな低下は避けられない状況である。

このため、住民からは関西圏への利便性を確保するため、大阪までフル規格で開業するまでの間、福井駅までの特急「サンダーバード」の運行存続を求める声がこれまで以上に高まっている。

併せて、敦賀開業後の中京圏への利便性を確保するため、特急「しらさぎ」の運行存続を求める意見も多く寄せられている。

これらの乗り換えの負荷が長く続くことになると、市民の関西や中京圏への移動はもとより、これら地域とのつながりが強く、観光やビジネスでの交流人口も多い鯖江市にとって、その影響は計り知れないものと危惧している。

これまで、鉄道利用者の負担軽減、市民の利便性の確保のために、鯖江市、市民、経済界、そして鯖江市議会も一丸となって、この特急存続の実現を要望し、切望してきたところであるが、福井・敦賀開業まで3年と迫った今、改めて、次のことを強く要望する。

記

- 1 特急「サンダーバード」については、フリーゲージトレインの導入を断念したことを踏まえ、その代替案として関西圏への利便性を確保するため、大阪までフル規格で開業するまでの間、国の責任において、その必要な財源措置も含めて、福井駅まで特急を引き続き運行させること。
また、県においては、国やJRに対して強く要請すること。
- 2 特急「しらさぎ」については、中京圏との利便性を確保するため、福井駅を乗換え拠点と位置づけ引き続き運行させること。

以上、地方自治法第99条の規定により、意見書を提出する。

令和2年3月13日

福井県鯖江市議会

(提出先)

衆議院議長、参議院議長、内閣総理大臣、国土交通大臣、内閣官房長官、福井県知事